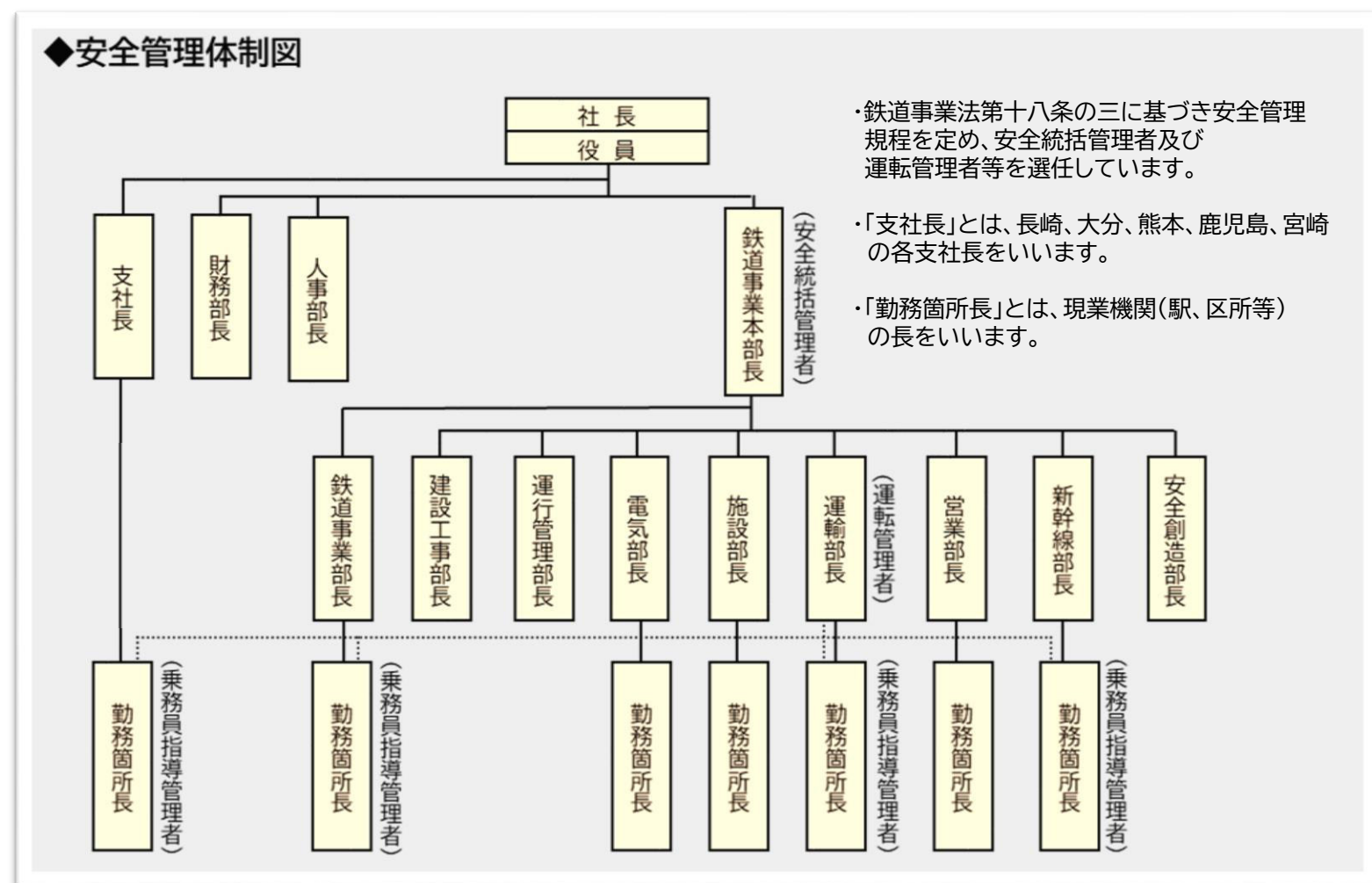


### 3-1 安全管理体制

経営トップの主体的関与の下に安全管理体制を確立し、輸送の安全の維持及び向上を図ることを目的として安全管理規程を制定しています。これに基づき、安全マネジメントのPDCAサイクルを維持・向上させるとともに、社員の声を反映した業務運営、安全総点検の実施等により安全管理の強化に努めています。また、国土交通省の「運輸防災マネジメント指針」の策定等に伴い、2021年4月には安全管理規程に「災害の被害軽減のための対策の検討及び実施」を加える改正を実施することで、改めて自然災害への対応の強化を図りました。

#### ◆輸送の安全の確保に係る体制

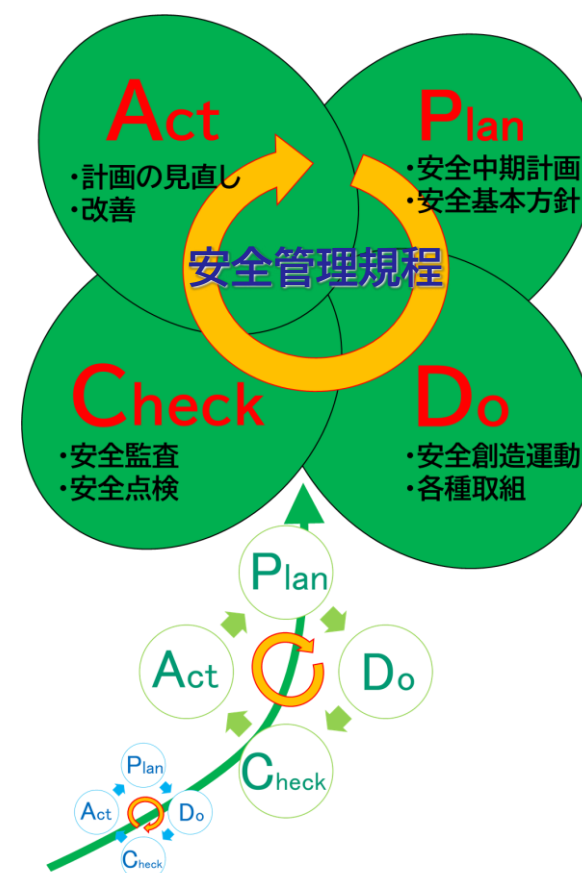


#### ◆安全管理体制に係る関係者の責務

経営トップ (社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全の確保に関する重要な事項を決定する。</li> <li>安全統括管理者がその職務を行う上での意見を尊重するとともに、必要により措置を講じる。</li> </ul>
安全統括管理者 (鉄道事業本部長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全を確保するための運転取扱い、車両、鉄道施設の各部門を統括する。</li> <li>安全意識の向上、関係法令等の遵守の徹底及び安全基本方針等の確実な実施を図る。</li> </ul>
運輸管理者 (運輸部長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全を優先する運行計画の作成及び改正、乗務員及び車両の運用、乗務員の育成及び資質の維持等を行う。</li> <li>運転に関する業務について、関係部長等から必要な報告を求め、指示を行う。</li> </ul>
乗務員指導管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属する乗務員の資質の維持、管理に努め、運輸管理者へ報告する。</li> </ul>

### 3-2 安全管理体制の維持・向上

安全管理体制は、計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→見直し・改善(Act)のPDCAのサイクルの確実な実行と、継続的な改善によるスパイラルアップを行うことが重要です。そのための基本となる安全管理規程を作成し、安全管理体制の維持・向上に取り組んでいます。



#### ◆PDCAサイクルの構成

- Plan(計画) → 安全中期計画・安全基本方針
- Do(実行) → 安全創造運動・教育、訓練、コンクール
- Check(評価) → 安全監査・安全点検
- Act(見直し・改善) → 監査点検報告・翌年度計画策定

#### ◆安全管理規程

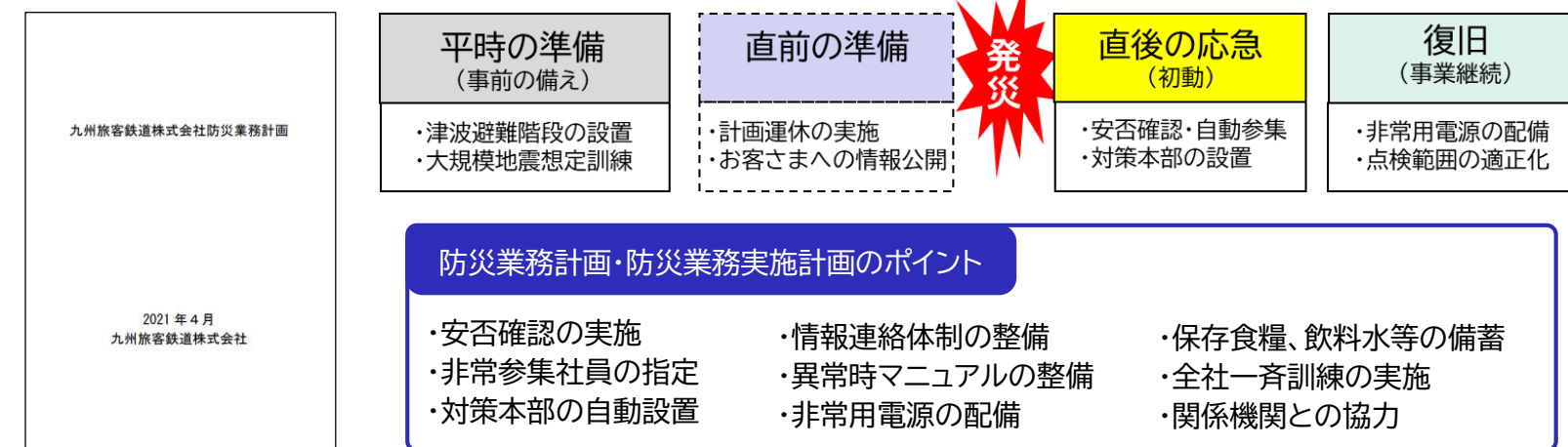
安全管理規程に基づき、安全管理体制の維持・向上が図られます。2021年度には運輸防災マネジメント指針が制定されたことを受け、安全管理規程の見直しを行い、災害に対する事前の備えに関する項目が加えられました。

#### 安全管理体制

安全風土の構築 + 自然災害対応  
安全への取り組みの推進

#### ◆自然災害への対応計画(運輸防災マネジメント指針への対応)

自然災害が発生した場合でも早期の対応及び事業の継続ができるように、防災業務計画・防災業務実施計画などを策定しています。これら計画に基づき、食料の備蓄や非常用電源の配備、緊急時の体制構築、社員の安否確認方法の整理や教育・訓練を実施するとともに、定期的な一斉点検を行うことで、日頃より自然災害への対応能力向上を図っています。



### 3-3 安全性向上の取り組み

安全の確保のためには、社員一人ひとりが高い安全意識を持ち、安全について自由に意見を交換しあえる風通しのよい組織であることが大切です。そのために「安全創造運動」を2006年度から継続展開し、安全風土の形成に努めています。

#### ◆安全創造運動2021の展開

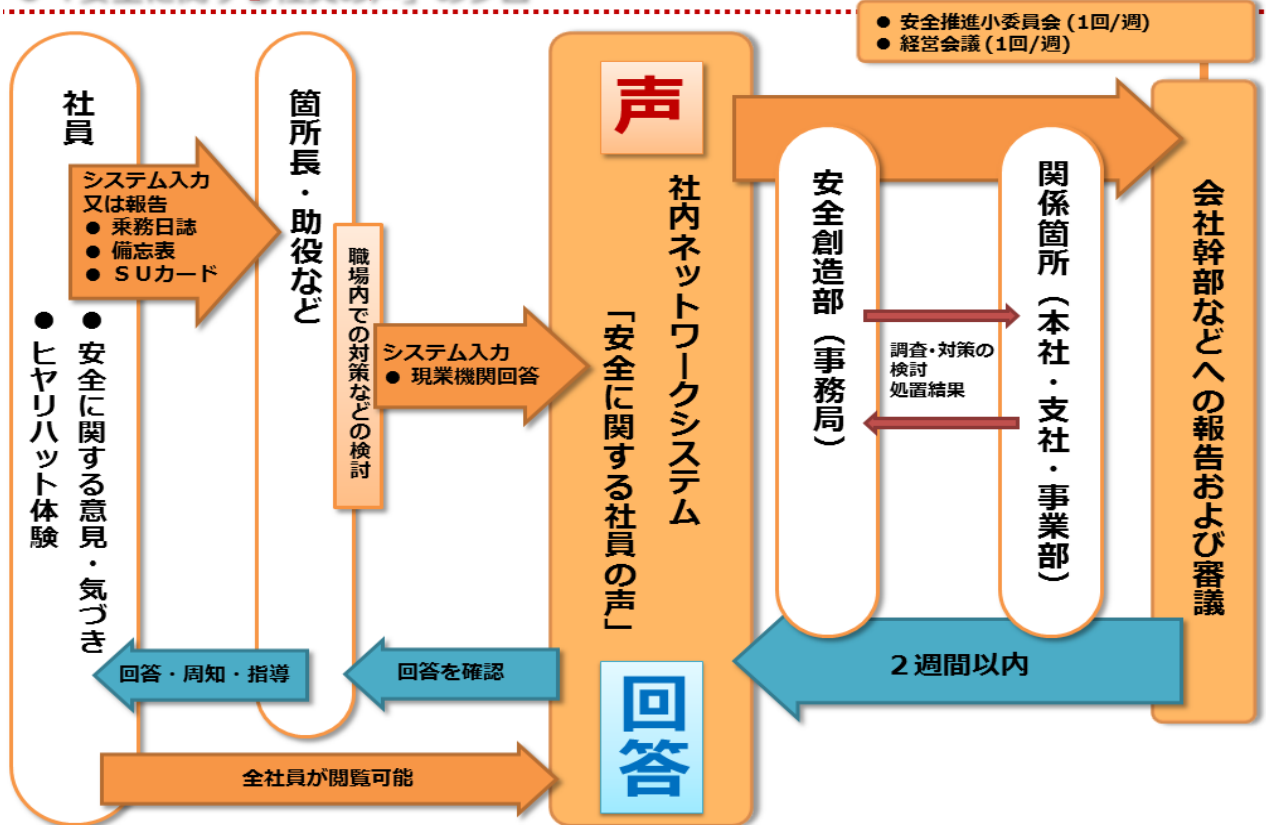
2021年度は、『命を守る!! ～ルールを理解し、実践する～』をスローガンに掲げ、「安全創造運動2021」を展開しました。また、安全創造運動における主な取り組みの一つである「安全に関する社員の声」は、社員の安全に関する「意見や気づき」及び「ヒヤリハット体験」を共有し、事故や危険の芽を未然に防止するためのシステムです。内容と対策を2週間以内に経営会議で報告し、その情報は社内ネットワークにより全社員に開示しています。



[安全創造運動2021パンフレット]

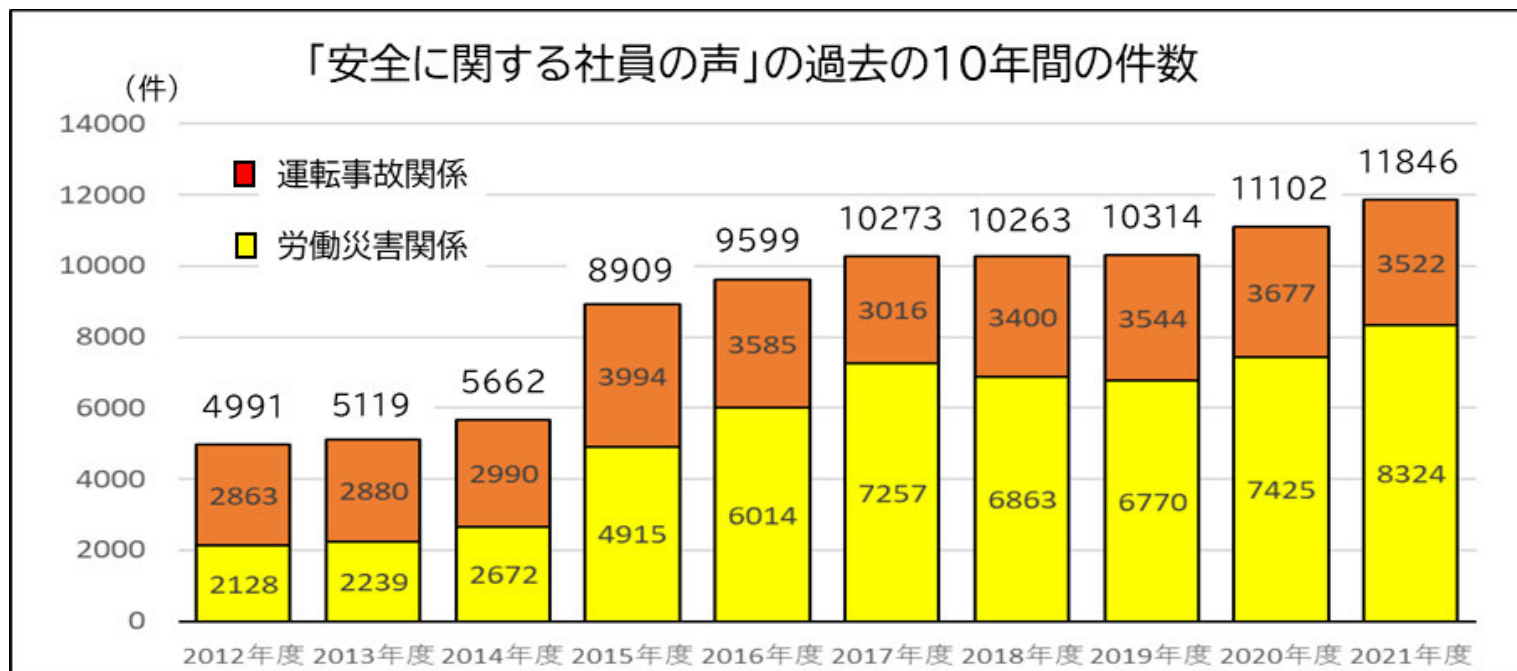
[ポスター]

#### ●「安全に関する社員の声」のフロー



[「安全に関する社員の声」の登録から対策実施までのフロー図]

#### ■「安全に関する社員の声」の件数



#### ■「安全に関する社員の声」に対する表彰

「安全に関する社員の声」をより一層促進する目的で、毎年各種表彰を実施しています。

##### ◆安全創造大賞

年間を通じて、多くの声に対し迅速に改善を図り、鋭い気づきや優れた意見の声を積極的に出し、安全創造運動の推進に貢献した職場や安全をつくるために顕著な功績をおさめた社員に対する表彰です。2021年度は、個人の部で1名、職場の部は1職場を表彰しました。

##### ◆安全創造賞

安全に関する高い問題意識がうかがわれ、安全に関して優れた意見等であると認められた声に対する表彰です。2021年度は6名を表彰しました。

##### ◆ヒヤリハット推進賞

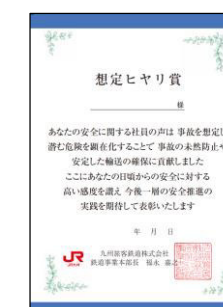
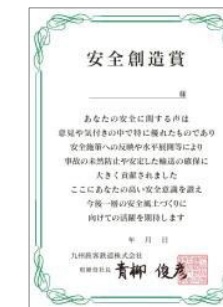
事故等の未然防止や安定した輸送の確保に大きく貢献した「意見・気づき」の声に対する表彰です。2021年度は、86名を表彰しました。

##### ◆ヒヤリハットオープン賞

自らのヒヤリハット体験を積極的に声に出すことで、事故等の未然防止や安定した輸送の安全確保、労働災害の防止に大きく貢献した声に対する表彰です。2021年度は、9名を表彰しました。

##### ◆想定ヒヤリ賞

想定ヒヤリの声で、安全性の向上や安定した輸送の確保に大きく貢献した声に対する表彰です。2019年度に新たに制定し、2021年度は、41名を表彰しました。  
※想定ヒヤリとは・・・ヒヤリハットや事故・ケガが未来に起こる以前に、危険に気づき、出す声のこと



■「安全に関する社員の声」による改善事例

2021年度に寄せられた11,846件の意見・気づきやヒヤリハット体験のうち、対策が必要な声は369件あり、これらについて対策の実施又は対策実施の方針を決定しました。対策が実施された「安全に関する社員の声」のうち、一例を紹介します。

事例

「安全に関する社員の声」

2927Dで吉都線の谷頭～万ヶ塚駅間走行中に進行方向右側の土手が幅約5mが1m程度地滑りしているのを発見した。地滑りした箇所は線路に支障をきたす位置ではなかったが、今後の降雨を考え、万ヶ塚駅到着後に指令に連絡した。

「回答」

地滑り発見の連絡を受け、速やかに現地調査を行ったところ、当社用地内の切取斜面の柔らかい表層の土の地滑りが確認されました。列車運行に支障が無いことを確認し、翌日にブルーシート養生を行いました。今後、梅雨明けに本復旧を検討します。



事例

「安全に関する社員の声」

木の伐採を行ったことにより、ホームと改札の間に高低差が生じたため、お客さまが転落する危険性があると思いヒヤリとしました。

「回答」

お客さまの転落防止のため、フェンスを設置して安全性を確保しました。



■安全創造運動の記録

展開された安全への取り組みは「安全創造運動の記録」として毎年まとめています。「安全創造運動の記録」は、社内のネットワーク上に掲載しており、全社員が閲覧することができます。

■安全創造・サービスを社風へ取り組み発表会全社大会

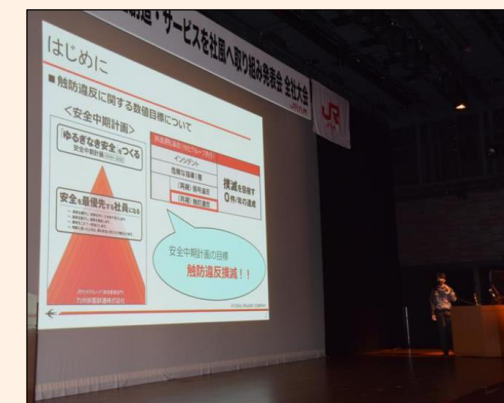
2021年10月20日、JR九州ホールにおいて「安全創造・サービスを社風へ取り組み発表会全社大会」を開催しました。安全に関する発表は、職場の取り組みを報告し共有、水平展開を図り、JR九州グループ全体の安全をつくることを目的としています。本社直轄及び各支社大会から選出された16職場が、各職場で行っている安全をつくるための取り組みについて発表を行いました。

最優秀賞

小倉電力区

「リアル版咄嗟の判断トレーニングによる触防違反撲滅に向けた一考察」

触防違反撲滅のために、実際の作業中に起こりえる不測の事態をリアルに再現し、列車防護トレーニングを行うことで、机上の学習だけでは得にくい行動力が身につきました。また他職場への水平展開を図り、安全性の向上につなげることができた取り組みを発表しました。

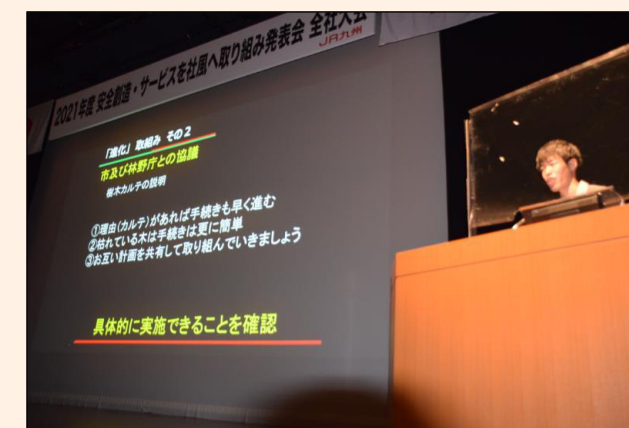


会場審査特別賞

佐賀鉄道事業部本所工務

「鉄道用地の保安林指定に伴う防災強度向上」

災害時の対応として、倒木の管理が大きな課題として挙げられます。特に国の保護に関する樹木に倒木の危険性がある場合、安全確保のためには伐採が必要となります。そのため、予め多くの自治体の方々と協議を行い、台風が来る前に緊急性の高いものについて伐木を行い、安全につなげることができた取り組みを発表しました。



発表会の様子



◆現場とのコミュニケーション

現場と本社の各部門との間でのコミュニケーションを強化し、安全に関する課題や情報の共有化を図るため、意見交換会等の様々な取り組みを行っています。



■社長との意見交換会

社長と現場との意見交換会を開催しています。各職場における安全に関する日頃の取り組みや、それらを推進する上での問題点などが直接社長に伝えられ、現場の実情や課題等について共有化を図っています。

■SU(セーフティ・アップ)ミーティング

安全推進プロジェクト及び技術指導プロジェクトによる現場巡回の結果報告や事故防止の取り組みをはじめとした、安全に関する取り組みの情報共有を図るため、社長や鉄道事業本部長(安全統括管理者)及び各主管部長、現場長等が出席して意見交換を行っています。



■鉄道事業本部長との意見交換会

鉄道事業本部長(安全統括管理者)と現場との意見交換会を開催しています。鉄道の安全について思っていることを気軽に話し合い、聞きあうことで、コミュニケーションを活発に行い、風通しの良い職場づくりを目指しています。



[SUミーティング]

■安全推進プロジェクト・技術指導プロジェクトの現場指導等

本社各系統の部署では、安全推進プロジェクト又は技術指導プロジェクトを配置して、各プロジェクト社員による現場巡回や勉強会、意見交換会等により、現場の意見や本社の安全に対する方針を共有しています。また、意見交換にあわせて、安全に関する研究・思考及び情報共有を通じて、中核社員の安全意識の向上を図る「安全ラボ」を行っています。



[安全推進プロジェクトとの意見交換会]



[安全ラボ]



[機関車の併結訓練]



[合同異常時訓練]



[転てつ機手回しハンドル訓練]



[列車防護訓練]

◆安全推進委員会の開催

本社では、鉄道運転事故や輸送障害及び労働災害等の未然防止や再発防止に関する対策の審議や、安全に関する情報の共有を目的として「全社安全推進委員会」が毎月開催されています。ここで決議された対策や情報等については、各部門毎で開催される安全推進委員会や撮影した議事動画により展開されます。また、決議された対策や安全に関する情報はグループ会社内でも展開され、JR九州グループ一体となって安全の確保に取り組んでいます。



[全社安全推進委員会]



[議事動画配信]

◆JR九州グループ一体となった取り組み

JR九州グループ(鉄道関係6社)の安全担当の責任者とともに、社員による取扱い誤りや労働災害について、その発生状況や安全対策等の情報共有を図るなどして、JR九州グループ一体となった取り組みを展開しています。また、他社を訪問させていただき、施設見学や意見交換等を行っています。



[安全対策等の情報共有]



[グループ会社の取組み紹介]